

ジェレミー・フィッシャー氏の話

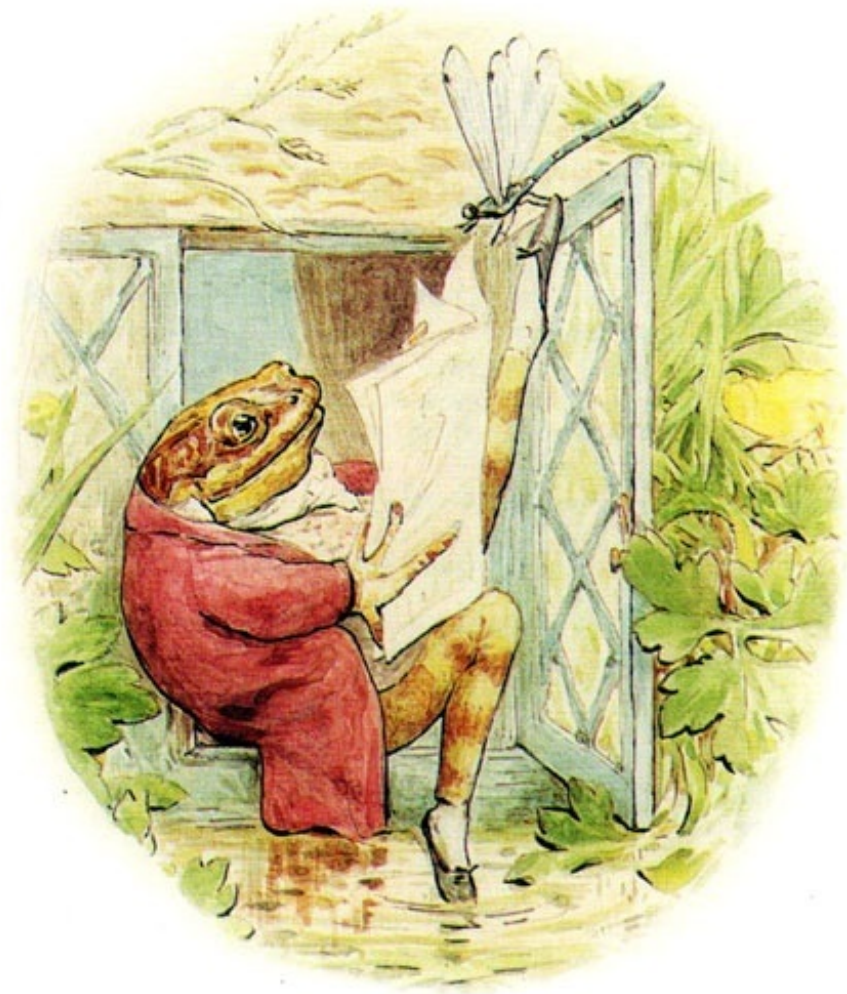


ビアトリクス・ポター さく・え

たちばな こうじ やく

ステファニーへ
いとこのBより





昔むかしジェレミー・フィッシャー氏というカエルがいた。

住まいは、池のほとりにある、キンポウゲにかこまれた小さな湿っぽい家だった。



食料置き場も、裏口までつづく廊下も、どこもかしこも滑りやすくて水浸しでね。でもジェレミー氏は、足は濡れてるのがお好みだったんだ。叱る人はいなかったし、風邪も引きやしないんだから！



表をのぞいて見たところ、たいそう嬉しいことに、池の水面に大粒の雨がはじけてた—



「ミミズを掘って釣りに行くのである、晩飯のおかずにウグイをつかまえるのである」とジェレミー・フィッシャー氏は言った。

「五匹以上釣れたら、友達のリクガメ・プトレマイオス長老と、アイザック・ニュートン卿を招待するである。長老は、しかれども菜食であるが」



ジェレミー氏は雨合羽を着て、ぴかぴかの雨靴をはいた。
釣り竿と魚籠を持つと、みごとなカエル跳びでもって、小舟を泊めてある場所に出
発した。



小舟は丸くて緑色で、まわりにあるスイレンの葉っぱに瓜二つだった。
池の真ん中に生えている水草に舫ってあったんだ。



ジェレミー氏は葦の竿をとり、広々した水面へと小舟を押しだした。
「小生はウグイの穴場を知ってるのである」



ジェレミー氏は、竿を泥の中につきさして、小舟を泊めた。
それからあぐらをかいて腰を据え、釣り支度をはじめた。
お気に入りの小さな赤い浮きに、丈夫な草の茎でできた釣り竿、釣り糸は上等な白
い長い馬の毛で、そのはしっこに、のたくる小さなミミズを結びつけた。



雨に背を打たせながら、じっと浮きを見つめること小一時間。
「あきてきたである、ここらでお昼にするである」



小舟をこぎ返して水草のあいだに戻り、籠からお弁当を取り出した。

「ちょうちょサンドを食して、雨があがるのを待つとするのである」と、ジェレミー・フィッシャー氏は言った。



ばかでかいゲンゴロウが、スイレンの葉の下にやってきて、片っぽの雨靴の先をひっぱった。

ジェレミー氏は足を組み直して届かないところにひっこめ、サンドイッチを食べ続けた。



一、二度、何かが池のそばの藺草のしげみを、がさがさばちゃばちゃと動き回った。

「ねずみではあるまいが」とジェレミー・フィッシャー氏。「ここから離れた方がよさそうである」



ジェレミー氏は、また少し小舟をこいで水草のあいだから出ると、釣り餌を垂れた。

ほとんど間を置かずに引きがきて、浮きが激しく上下した！

「ウグイ！ ウグイ！ もらったである！」

ジェレミー・フィッシャー氏は竿を引きあげながら叫んだ。



ところがびっくり仰天！

脂ののったつるつるのウグイのかわりに、ジェレミー氏が釣りあげたのは、とげとげだらけのちびのトゲウオ、ジャック・シャープ！



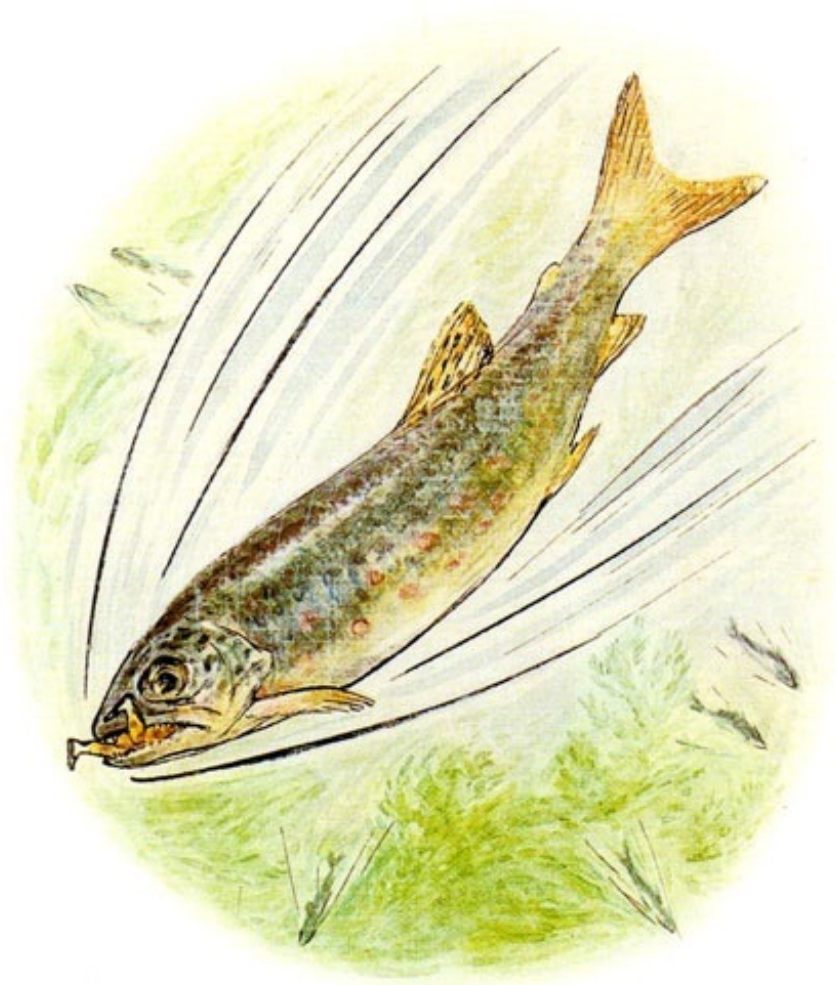
トゲウオは、小舟のうえで刺すわ噛むわ、息が続かなくなるまでのたうちまわったあげく、また水の中に飛び込んでいった。



おまけに小さな魚の群れが、水面から顔を出し、ジェレミー・フィッシャー氏を笑うのさ。



それでジェレミー氏が悄然と小舟の縁に座り— 痛む指をなめながら水底を見つめてたら— さらにひどいことが起きたんだ。心底おそろしい羽目になってたはずだったんだよ、もしもジェレミー氏が雨合羽を着てなかったら！



とびきりでっかい大マスが現れて— 水しぶきをあげてザッパ——ン！— ジェレミー氏をパクリとくわえて、「あう！あう！あう！」— そうして身を翻し、池の底に引きずり込んだんだ！



けれども雨合羽があまりにまずかったもんで、マスのやつ30秒とたたずにジェレミー氏を吐きだした。だから飲み込まれたのは雨靴だけ。



ソーダ水の瓶から飛び出した泡とコルクみたいに水面にはね飛ばされたジェレミー氏は、岸にむかって全力で泳いだ。



まっさきにたどりついた土手にはいあがると、川辺の草むらをつつきって、家まで跳んで帰った。ぼろぼろになった雨合羽をひっかけて。



「カワカマスでなかったのは不幸中の幸いである！」とジェレミー・フィッシャー氏。

「釣り竿と魚籠をなくしてしまったが、そんなものはかまわないのである。小生はもう二度と釣りなどごめんこうむるのであるから！」



指に絆創膏をはっていると、友人達がそろって夕食を呼ばれにやってきた。
魚をご馳走することはできなかったけれど、他のものなら食料貯蔵庫にあった。



アイザック・ニュートン卿は、金と黒模様のチョッキを着てきたし、



リクガメのプトレマイオス長老どのは、サラダにする野菜を網袋に入れてきた。



そして、素敵なウグイ料理の代わりに— 饗されたのは、ローストバッタのテントウムシソース添え。カエルにとってはこの上ないご馳走というわけさ。私なら間違いなく、ウェットなっちゃうけどね！

おしまい

ポター作品リスト

Beatrix Potter作品の日本における著作権は消滅し、パブリックドメインに帰しています。
翻訳の底本はFREDERICK WARNE出版の The original and authorized edition です。

1. The Tale of Peter Rabbit (1902) 【[ピーターラビットの話](#) : 2012.3】
2. The Tale of Squirrel Nutkin (1903) 【[リスのナトキンの話](#) : 2012.3】
3. The Tailor of Gloucester (1903) 【[グロスターの仕立屋](#) : 2012.4】
4. The Tale of Benjamin Bunny (1904) 【[ベンジャミンバニーの話](#) : 2012.3】
5. The Tale of Two Bad Mice (1904) 【[二匹のいたずらねずみの話](#) : 2012.12】
6. The Tale of Mrs. Tiggly-Winkle (1905) 【[ティギーウィンクルさんの話](#) : 2012.5】
7. The Tale of the Pie and the Patty-Pan (1905) 【パイと焼き型の話 : 執筆中】
8. The Tale of Mr. Jeremy Fisher (1906) 【[ジェレミー・フィッシャー氏の話](#) : 2014.2】 **NEW**
9. The Story of A Fierce Bad Rabbit (1906) 【[あらくれやくざうさぎ物語](#) : 2012.12】
10. The Story of Miss Moppet (1906) 【[モペット嬢物語](#) : 2012.12】
11. The Tale of Tom Kitten (1907) 【子ねこのトムの話 : 執筆中】
12. The Tale of Jemima Puddle-Duck (1908)
13. The Tale of Samuel Whiskers or, The Roly-Poly Pudding (1908)
【[サミュエル・ウィスカーズの話](#) もしくは、[うずまきプディング](#) : 2013.4】
14. The Tale of the Flopsy Bunnies (1909) 【[フロプシーのちびっこたちの話](#) : 2012.4】
15. The Tale of Ginger and Pickles (1909) 【[ジンジャーとピクルズの話](#) : 2013.1】
16. The Tale of Mrs. Tittlemouse (1910)
17. The Tale of Timmy Tiptoes (1911)
18. The Tale of Mr. Tod (1912) 【[ミスタートッドの話](#) : 2012.11】
19. The Tale of Pigling Bland (1913) 【[ピグリブランドの話](#) : 2013.12】
20. Appley Daply's Nursery Rhymes (1917) 【[アプリィ・ダプリーの話](#) : 2012.4】
21. The Tale of Johnny Town-Mouse (1918)
22. Cecily Parsley's Nursery Rhymes (1922) 【[セシリ・パセリの話](#) : 2012.4】
23. The Tale of Little Pig Robinson (1930) 【[こぶたのロビンソンの話](#) : 執筆中】 **NEW**

原文参照

[Project Gutenberg : Books by Potter, Beatrix](#)

[Arthur's Classic Novels / Beatrix Potter](#)

ジェレミー・フィッシャー氏の話

<http://p.booklog.jp/book/82777>

作者：ピアトリクス・ポター

訳者：橘 柑子

作者プロフィール：<http://ja.wikipedia.org/wiki/ピアトリクス・ポター>

訳者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokijikudou/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/82777>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/82777>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ